

てこひをきりて、御さかなにまいらするなり、そのあくは、ぎのかみのかたにうちて、まんをあげて、ほう丁をそんざ御覽するなり、

幄種類

〔延喜式三十大藏〕元正略○中 七日前一日、大膳職備節食所、立五丈紺幄。一字、木工預堅、帷幔此。

〔江家次第十四〕大嘗會御禊 皇后同輿儀

先是、皇后出車、女御代出車、列立於頓宮北錦幄。内相對立之、皇后南、女御代北。

〔枕草子十一〕御經のことにあすわたらせおはしまさんとて、こよひまいりたり、○中 おはしまし

つきたれば、大門のもとにこまもろこしのがくして、獅子こま犬をどりまひ、さうの音つゞみの

ころに物もおぼえず、こはいづくの佛の御國などにきにけるにかあらんと、空にひゞきのぼる

やうにおぼゆ、内に入ぬれば、いろ／＼の錦のあげはりに、みすいとあをくてかけわたし、へいま

んなどひきたるほど、なべてたゞに此世とおぼえず、

〔續世繼一〕がねのみのり〕三年治 十月十五日には、宇治の平等院にみゆきありて、おほきおとゞ

頼藤原 二三年かれにのみおはしまし、かば、わざとのみゆき侍りて、みたてまつらせ給とぞう

け給はりし、○中 みだうの有さま、川のうへにに。し。き。の。か。り。や。つ。く。り。て。池。の。う。へ。に。も。か。ら。ふ。ね

にふえのねさま、くまらべて、御前のものなどは、こがね白かね、色々の玉どもをなんつらぬき

かざられたりける、

幄用法

○按ズルニ、かりやハ幄屋ヲ云ヘルナリ、

〔延喜式三十大藏〕七日正 前一日、大膳職備節食所、立五丈紺幄。一字、木工預堅、帷幔此。

八日略 ○中 同日王 祿内裏南庭西方、立五丈紺幄。二字、女王 等所侍、十一

十七日大射、立七丈紺幄。一字、懸幔蕃客入朝之日、設帷幔、

二月八月釋奠祭、立五丈幄。一字、懸幔并數、並聽官處分、○中略。